

私達の君津市は1%支援事業が起爆剤となって、県下で最もやる気のあるまちだと評価をされております。大型モール方式は、簀立漁の様に客を囲い込む方式でした。

表参道を考えた安藤忠雄は、人が街を回遊して地域が共に栄える方式に設計を変えました。

石原都知事は、この考えを重用したので、仲のよかった囲い込み型の黒川紀章は反旗をひるがえたと私は思っています。

しかし既存商店会には自力で新しい街を創出するパワーは今ではありません。過当競争に疲れ、街の資産価値を失ってしまったからです。

私は会頭就任以来、全国の既存商店街でにぎわっている元気な街を歩いて参りました。

帯広、函館、川筋千軒、能代、新潟、吉祥寺、戸越、横浜橋、谷中、宇都宮、彦根長浜、高山、城崎、倉敷、尾道、備前、長崎、佐世保、人吉、鹿児島と書ききれない数であります。

①裏日本海の特徴は、日本海にそって北陸から、青森へと新しい幹線道路が完成すると各市町村商店街は旧街道から新しい道路に沿って商店街を移転、温泉風呂、コミセンを中心に地元客と往来する観光客も上手に取り込んで、ロードサイド型の商店街を作りました。

これらを参考にすれば、君津安房への入込観光客凡そ450万人受け皿として、配慮が不足していると言えます。

②本来商店街は自然発生して需要に応じて長い街並みを形成したものであります。

せっかくの商店街も従来の伝統型店は亡びておりますが、今でも栄えている「平たく長い商店街」～平均して店舗凡そ200店 距離500m位～全国に千か所位あります。

なぜ？と問われるならば、生鮮3品の店がしっかりと頑張っており、地元客が育ててくれているから？と思います。

特に商店会の大切な役目は、

(イ) 町の人のつながりが強くて、伝統文化、行事、祭りを継承し、青少年を育て、成長させる役目を今でも果たしているところであります。

(ロ) 人のつながりがあるから、犯罪も青少年の非行化もなく、環境や自然の景観も壊さず、商店街が市民と共存しているから市民の資産価値もまた下落せず市民が安心して住める郷土愛を生んでいると思われれます。

今君津の八重原商店会は（石崎、越川東西両商店会長）そのよきモデル商店街であります。

商店街店舗凡そ200店を越え、中央公園まで凡そ2km間大変にぎわっております。

市長さんは活性化のためには全面協力をと応援してくれております。

市役所の北側通り（凡そ800m）をうまく連結していただき、更にアピタから（約200m）君津駅南口へと至難な課題があることは承知しておりますが、流れのよい商店街として再開発をして下されば、日本一の商店街となる条件を持っております。

私がかねがね君津駅空中都市構想を提案しておりますが、JR本社も駅の商業化にかなり積極的であります。

これからの商店街は生鮮3品をさらに充実させると共に、ブランド品だけのアウトレットでなく、食料品など最寄品にも新しい定義のアウトレットを加える方法があるのではと思っています。

コンパクトだが、この商店街を訪れると暖かみと安心感を与えてくれると言われたいものです。

街づくりの可能性はよきリーダーと店主夫妻の結心であります。